



青経連経営者講習会と 通常総会を開催

【青年経営者連合会】



令和7年6月18日、青年経営者連合会（青経連）の経営者講習会と通常総会がホテルニューイタヤで開催されました。経営者講習会では、株式会社トークナビ



代表取締役アナウンサーの樋田かおり様を講師に迎え、「社長の伝え方には会社を変える力がある」をテーマに講演を行いました。



その後通常総会が開催され、岩澤青経連会長から、「当会では地域に必要とされる建設業の姿を若い世代にも伝えるべく「建FES GO!」を実施してきた。今後も青年経営者ならではの視点と行動力で業界の未来を切り

拓いていきたい。」と挨拶がありました。

議事では令和6年度の事業として、職業体験を通じて建設業をPRする「建FES GO!」や、土木事務所との意見交換会、「とちけん小町による魅力発信プロジェクト」を行ったことを報告しました。続けて令和7年度の事業計画として、「建FES GO!」の継続開催や、各団体との意見交換会、「全国・関東建設青年会議」、「北関東三県合同会議」への参加等、各種活動に積極的に参加していくことを説明しました。

土木・建築の仕事の魅力を伝達 ～宇都宮工業高校にて出前講座～

【宇都宮支部】



カンセキスタジアム見学（建築）

宇都宮建設業青年の会（当時・津野田哲会長）は、令和7年2月27日に宇都宮工業高校の環境土木科ならびに建築デザイン科の2年生を対象とした出前講座を実施しました。この講座は工事現場や実際の建築物の見学とともに建設業の仕事内容の紹介をとおして、建設業の社会的役割や魅力を正しく理解していただくことにより、将来の担い手確保につなげるのが目的。



下部工の現場見学（土木）



若手技術者との座談会（土木）



若手技術者との座談会（建築）

学校での環境土木科ならびに建築デザイン科合同の開会式の後、環境土木科は「主要地方道宇都宮向田線板戸大橋下部工建設工事」を、建築デザイン学科は「カンセキスタジアム」「ユウケイ武道館」を見学。現場や建築物を見学した生徒たちは、案内役の工事担当者に盛んに質問しており、

普段勉強していることに対してさらに興味がわいているようでした。

午後の座学では、現場監督の仕事内容を説明し、また現在現場で活躍している若手技術者との座談会形式の話し合いも設けられ、より具体的に仕事内容を理解していただきました。

（岩原産業(株) 岩原正樹）



水害に備え万全の体制を整備 ～宇都宮で利根川水系総合演習開催～

【宇都宮支部】



宇都宮建設業協会(栃木県建設業協会宇都宮支部)は令和7年5月17日、宇都宮市の鬼怒川道場宿緑地で開催された国土交通省・関東1都6県・宇都宮市が主催の第73回利根川水系連合・総合水防演習に参加しました。この演習は1947年に発生したカスリーン台風の被害を教訓に、1952年から利根川水系の栃木・群馬・茨城・埼玉・千葉の5県の持ち回りで毎年開催されているもので、演習の総裁は高橋克法国土交通副大臣が、副総裁を福田富一栃木県知事ならびに佐藤栄一宇都宮市長が務めました。



宇都宮建設業協会は第1部の水防訓練において、大型土のうをトラックで搬入し設置する水防活動の支援を、第2部の越水発生

後の救出・救護訓練では、緊急車両が通過できるよう氾濫水による流木を迅速に撤去する道路啓開作業を担当しました。

高橋克法国土交通副大臣が「水害への備えはハード整備とソフト対策が必要。流域治水を進める上で関係者が一堂に会する訓練が重要。」とあいさつされた内容がまさに具現化された意義ある演習となりました。

(岩原産業(株) 岩原正樹)

水防訓練で地域防災に貢献

【鹿沼支部】



水防工法演習

令和7年6月8日、鹿沼消防本部訓練場にて開催された水防訓練に参加しました。この訓練は、水防管理者である松井正一鹿沼市長からの要請を受け、水防法第36条に基づく水防協力団体としての責務を果たすべく行われたものです。

午前8時30分から10時までの間、参加者は水防工法演習に真剣に取り組みました。特に、大雨災害時に不可欠となる土のうの作成方法や設置方法については、消防団員からの指導のもと、実践的な訓練が行われました。



土のう作製



道路河川等管理情報システムの説明

演習後には、鹿沼支部技術委員会委員長の飯野より「道路河川等管理情報システム」について説明を行いました。このシステムを共有することで、消防団員の皆様が災害発生時における道路や河川の状況把握、迅速な情報共有と適切な対応を可能にすることを目的としました。

今回の水防訓練を通して、「地域の守り手」として防災力向上および建設業協会の貢献を広く発信するものとなりました。今後も、栃木県建設業協会鹿沼支部は、災害に強いまちづくりに向けて積極的に活動してまいります。(五月女建設(株) 五月女紀士)



除雪カードを作成し、配布 (7種類 2,800枚)

【日光支部】



令和6年度の広報活動として、日光支部では除雪カードの作成（7種類 2,800枚）・配布を行いました。日光支部の窓口にて配布を行ったところ好評であったため、栃木県道路公社でも閑散期の交通量増加対策として配布したい旨の要請を受けました。結果として日光支部窓口には令和7年4月30日現在で延べ400人の方にご来訪いただき、日光道では日光口PA（下り：3種類、上り：4種類）に配置したところ、計350枚の全ての配布が終了しております。この活動は下野新聞などにも掲載されました。

近年では積雪量の減少など除雪作業の機会は少なくなっておりますが、地域の守り手として大切な仕事を担っていることを多くの方に知っていただく活動を継続してまいります。



(株)山田組 山田 孝

芳賀支部創立 100周年を迎えて

【芳賀支部】



芳賀支部は、今年1月に創立100周年という大きな節目を迎えました。初代芳賀支部長に坂本勝造氏が就任して100年、この間、戦争、経済危機、自然災害など様々な出来事に直面しながらも、先人から受け継いだ技術とその時代の新しい技術を取り入れ、地域とともに成長を続けてまいりました。

昨年12月14日には、「芳賀支部創立100周年記念式典」を盛大に開催することができました。当日は、福田知事をはじめ来賓、関係企業、支部員合わせて約130人が出席し、森本章倫早稲田大学教授による記念講演会、歴代支部長への感謝状贈呈、祝賀会が行われました。支部員一同、100年の歴史を振り返り、一貫して「地域の創り手」「地域の守り手」として果たしてきた支部の役割を再認識するとともに、総力を結集して人々が安全安心、豊かに暮らせる地域づくりに力を尽くしていく決意を新たにいたしました。



次の100年への一歩を踏み出す私たち芳賀支部の活動に引き続きご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(大関建設(株) 大関好男)



乙女大橋現場見学会 実施報告

【下都賀支部】



令和7年4月15日、乙女大橋安全衛生協議会による現場見学会を開催しました。

近隣の小山市立乙女小学校の5・6年生約170人が参加し、乙女大橋の歴史や、橋の架替工事の意義についてイラストを交えて説明を行いました。続いて、工事写真を用いて現場代理人が橋づくりの手順や工程を説明。

さらに、参加児童は安全帯・ヘルメットを着用のうえ、グループごとに高所作業車に搭乗し、約10mの高さから橋脚の景色を体験しました。



待機時間には、建設業クイズを実施。正答数の多い児童にはオリジナル重機シールをプレゼントし、大いに盛り上がりました。

質疑応答では、「橋はいつ完成するの?」「どんな橋になるの?」など、児童たちが積極的に手を挙げ、新しい橋への期待が感じられました。

参加者からは「経験したことのない高いところから橋が見られて楽しかった!

という笑顔の声も。

今回の体験を通じて、児童たちの建設業への理解と関心が深まり、工事への注目度の向上や、将来の担い手育成にもつながることが期待されます。

(株)山中組 山中慎太郎

水防及び地震情報伝達 合同訓練 (道路河川等管理情報システム・現場応急対策)

【塩谷支部】



堤防浸食防止大型土のう積工法にて応急処置状況

令和7年6月12日、塩谷支部は水防及び地震情報伝達訓練を実施しました。塩谷支部、矢板土木事務所、矢板市、建設コンサルタンツ協会関東支部を含め合同訓練に約60人が参加しました。道路河川等管理情報システムを使ったりリモートでの情報共有と意思伝達訓練により現場との連携を確認し、災害対応力強化を図りました。水防訓練では、台風接近の影響により線状降水帯が発生し、箒川沿いの堤防浸食を想定。現場班は本部指示により大型バックホウを搬入、クイックホッパーを使用し、大型土のうの作製を行い浸食箇所に設置、応急処置を行いました。



塩谷支部対策本部情報確認

地震訓練では、矢板市において震度5弱の内陸型直下型地震が発生し、異常時に備えた待機体制を執っている想定。対策本部より道路、河川及び急傾斜地のパトロールを行うよう指示があり、撮影現場班が現場パトロールを行い情報システム使用により各現場状況を報告、状況確認を対策本部が行い情報共有の連携を図りました。

橋梁部異常箇所においては、建設コンサルタンツ協会調査員が現地に向かい、橋梁破損箇所の緊急点検、安全性評価を行いました。異常気象、大型地震の多い近年、訓練によりいつでも非常時に対応できるように県、市町、各協会が連携を図り、地域の守り手として防災活動に今後も努めていきたいと思ひます。

橋梁部異常箇所においては、建設コンサルタンツ協会調査員が現地に向かい、橋梁破損箇所の緊急点検、安全性評価を行いました。異常気象、大型地震の多い近年、訓練によりいつでも非常時に対応できるように県、市町、各協会が連携を図り、地域の守り手として防災活動に今後も努めていきたいと思ひます。

(友建工業株) 小菅秀樹



建設フォトコンテスト in とちぎ

【那須支部】



建設業の魅力発信のため令和7年1月23日から4月30日までの期間で「第1回建設フォトコンテスト in とちぎ」“身近にある建設業と冬景色”をテーマに、建設現場の冬の写真を関係者・一般を問わず広く募集しましたところ、多数の作品が投稿されました。投稿



投稿された作品は県北建設会館に展示しています。



者の内訳は、建設業関係者及び一般の方々(小学生も含む)となっており、審査委員会による審査を経て各賞を決定し発表したいと思います。

また、今回は冬景色と題し募集しましたが、建設現場の「春夏秋冬」、四季を通じて募集することにより、建設業への関心を広く一般の方々に持ってもらう、魅力を発信することにより人材確保につながることを期待し、継続して実施したいと考えております。

募集に当たり、ポスターの掲示に協力をいただきました関係機関、関係者並びに投稿していただきました皆様方に感謝申し上げます。

(株)館林工業 館林貴之

道路河川等管理情報システムを用いた伝達訓練

【烏山支部】



ドローンによる現地確認 那須烏山市大沢地区

令和7年6月19日、烏山支部では情報伝達訓練を烏山土木事務所並びに那須烏山市、那珂川町と合同で実施しました。

訓練は台風の影響で大雨洪水警報が発令され県道で落石が発生、一級河川荒川では河川増水により河岸が危険な状態であることを想定して訓練を実施し、関係機関から約30名が参加しました。



情報伝達にあたっては、栃木県建設業協会が開発・運用する「道路河川等管理情報システム」を活用し、現地状況並びに情報等をシステムにアップすることにより、関係機関が情報の把握と共有化を図ることができました。また、烏山支部員は、訓練にあたり事前に



システムの講習会を受講。事象状況に合わせた情報登録方法を習得することにより、効率的な情報の共有化に努めました。

また、現地状況確認方法の強化を図るため、ドローンによる現地確認を行うとともに、それらの情報を関係機関と共有することにより、現地復旧の早期対策・計画の判断材料として活用することができました。今後、烏山支部では現地情報取得強化を図るため、ドローン講習や機器の導入等を進めてまいります。

(株)荒川建設 中山靖之



排水ポンプ車訓練

【安蘇支部】



令和7年5月27日、佐野市を流れる一級河川・旗川の白旗橋下流において、安足土木事務所、わたらせ建設業協同組合、安蘇建設業協同組合による排水ポンプ車の操作訓練を行いました。

本訓練は、近年増加傾向にある局地的豪雨や台風などによる河川の急激な増水に備え、迅速かつ的確な排水対応を可能とするための重要な取り組みです。当日は実際の出動を想定し、ポンプ車の現地搬入からホースの設置・吸水・排水までの一連の流れを確認しながら、関係者が連携して作業を行いました。



参加者たちは、操作手順の再確認だけでなく、現場での安全確保や情報共有の重要性についても意識を高める機会となりました。訓練の中では、実際に出動した場合を踏まえた応用的な対応も取り入れられ、災害時の実効性を高める内容となっていました。

今回の合同訓練を通じて、関係機関同士の連携強化が図られたとともに、地域住民の生命と財産を守る体制づくりへの一層の貢献が期待されます。

(岡田土建(株) 石澤洋幸)

おかえり中橋！

【足利支部】



令和7年5月11日、中橋3連アーチ橋(側人道橋)の開通に合わせて、中橋への愛着を深めるためのイベント「おかえり中橋！～未来へつなく架け橋～」が国・県・市の主催で開催され、足利支部も共催団体として参加しました。

当日は、午前10時から開通セレモニーが行われ、主催者代表挨拶の後、地元小学校の児童による親柱の除幕とテープカットが行われ開通となりました。引き続き、高校生のバトントワリング部やジュニアマーチングバンドを先頭に関係者をはじめ、たくさんの市民が渡り初めを行い、開通が祝われました。



このイベントでは、我々も高所作業車の搭乗体験を行いました。高所から中橋の3連アーチを見渡す風景は、約400人の市民が参加するなど大人気で、我々も大変有意義な時間を過ごすことができました。

今回のイベントを通して、改めて中橋がたくさんの市民に愛されていることを実感するとともに、我々も微力ながら、この中橋の架け替え事業にできる限りの貢献をしていきたいと考えたところです。

(三興工業(株) 山根良樹)